



科学・芸術・宗教の対話が見つめる
一一〇〇年後の世界とは。

高野山會議

K
O
Y
A
S
A
N



C
O
N
F
E
R
E
N
C
E

2021



「高野山会議」 自然と調和する 世界を求めて

主催者挨拶



先端科学技術研究センター所長
神崎亮平

私たちは、科学や技術から多くの恩恵を受け、今の社会を築き上げてきました。一方で、自然に大きな負荷をかけた結果、気温上昇による異常気象、資源の枯渇、さらにはエネルギーの問題をはじめとする地球規模の課題を生み出しました。

この原因の一つは、私たちの自然に対する考え方によるもので、人が自然を制御するという、人を中心 (Human-centered) として自然を捉えてきた点にあると思います。一方で、人も自然の一部であり、自然と共に生き、そして生かされているという考え (Nature-centered) も私たちの心の奥底にはあるのでないでしょうか。

多様な人々、そして多様化する社会においては、最適な1つの答えを出すだけでなく、場に応じた多様な答えを出していくことが求められています。弘法大師空海は、世の中には無駄なものはなく、あらゆるものに価値や意義があり、それぞれの関係において宇宙がなりたつことを教えてくれます。そして、その思想が 1200 年にわたり持続的に受け継がれてきた場が高野山です。

科学、芸術、デザイン、哲学、そして宗教など多様な分野に関わる人々が集い対話し、人間性と倫理観ある未来、1200年後の世界を考え、形にする舞台として、高野山はすばらしい場です。未来の形を高野山の皆さんと共に先端研は「高野山会議」として世界に発信していきます。

高野山会議 2021

2021年11月26日～28日 於金剛峯寺 / 高野山大学

主催：東京大学先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

共催：和歌山県 / 高野町 / 高野山真言宗総本山金剛峯寺 / 高野山大学

www.aad.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/

開 会 式

日時：11月26日(金) 13時30分～15時00分 場所：金剛峯寺新別殿

オープニング(声明) 高野山会議によせて(お話)
松長有慶 祝下

開会宣言

東京大学先端科学技術研究センター所長 神崎亮平

共催者あいさつ

高野山真言宗 / 宗務総長・総本山金剛峯寺執行長 今川泰伸
(代理)同 / 宗務総長公室長 藪邦彦
高野町長 平野嘉也

来賓紹介

東大先端研の先生方の紹介

先端アートデザイン分野プレゼンテーション

SESSION 01

人間と宗教とテクノロジー

担当：吉本英樹

日時：11月27日(土) 10時00分～12時00分 場所：金剛峯寺3F 講堂

テクノロジー / 身体拡張工学 / 宗教

目的

宗教とテクノロジーの共通項を探り、これからの未来に両者がどのように、時に手を取り合いながら、人間と関わっていくべきかを議論する。

概要

テクノロジーはもはや現代の宗教だとも言われる。その是非はさておき、技術が人間の価値観や存在にまで影響を与える時代であることは間違いない。全く異なる時間軸にあり、対極であるかのような宗教とテクノロジーは、人間の精神や身体を拡張するという点において、意外にも手を取りあえる点があるのではないか。実践者との議論から考察したい。

「1200年後の世界」とのかかわり

現代的なコンピュータが登場してまだ数十年であり、いま宗教とデジタルテクノロジーの時間軸は比較にもならない。しかし今から1200年後、人間をめぐる宗教とテクノロジーの存在感が大きく変化したときに、この両者の関係も、今とは異なるものになるはずである。そこであるべき姿とは、どういったものかを考えたい。

【ホスト & ゲスト情報】 吉本英樹 / 稲見昌彦 / 瓜生大輔 / 松長潤慶

SESSION 02

4分33秒と『円融無礙』

担当：近藤薫

日時：11月27日(土) 13時00分～15時00分 場所：金剛峯寺奥殿

クラシック / 現代音楽 / ジョン・ケージ / 仏教 / バリアフリー

目的

ジョン・ケージの代表作「4分33秒」を円融無礙の見地から読み、実践し、未来のバリアフリーを考える

概要

西洋文化の芯とも言える西洋芸術を研究することは、明治期文明開化以降西洋化した我が国において、文化的な社会を築いていく上で非常に重要なことである。西洋芸術音楽の地平線とも言える4分33秒が円融無礙を表現した作品であることを今一度見つめ、また実際に演奏することで、東洋と西洋の隔たりをなくすことの意味を考える。

「1200年後の世界」とのかかわり

円融無礙という、全ての隔たりがない仏の世界は、パーフェクト・ボーダーレス、パーフェクト・バリアフリーの世界とも言えるのではないか。高野山が空海とともに1200年実践してきた仏の世界に、未来のバリアフリーのあるべき姿のヒントが隠れているのではと思う。

【ホスト & ゲスト情報】 近藤薫 / 新井鷗子 / 近藤高志 / 乾龍仁

SESSION 03

次世代育成 科学技術からアートへ

担当：神崎亮平

モデレータ：森晶子

日時：11月27日(土) 15時30分～17時30分 場所：金剛峯寺3F 講堂

STEAM / デジタル社会 / 人間性 / 五感 / 悟性と感性 / 自然中心主義 / 環境創成

目的

人間性豊かな人材の育成について、アート、宗教、科学、行政の視点から議論し、次世代を担う人材育成の普遍性と多様性を議論する。

概要

デジタル社会が到来し、ネットワークが整備され、さまざまなICTツールを活用した教育が展開している。一方で、デジタルに偏重した教育環境の是非も取り上げられるようになった。本セッションでは、これからはますます重要となる人間性豊かな人材の育成について、アート、宗教、科学、行政など異なる立場の講師から話題提供をいただき、パネルディスカッションを通して、次世代の人材育成について議論する。

「1200年後の世界」とのかかわり

「綜芸種智院」は、空海が設立した庶民を対象とした学校であり、古代ギリシャには、プラトンが開設した「アカデメイア」がある。人材の育成にはさまざまな歴史があり、さまざまな視座があるが、人間性豊かな人材の育成は共通した理念である。アート、宗教、科学、行政など異なる視点から1200年後を見据えた人材育成の議論は、人類と自然が真に調和した世界を築くうえで欠かせない。

【ホスト & ゲスト情報】 神崎亮平 / 澤和樹 / 乾龍仁 / 平野嘉也 / 森晶子 (モデレータ)

SESSION 04 空海と現代 高野山という名のトポス 担当：奥山直司

日時：11月28日(日)10時00分～12時00分 場所：高野山大学 201教室

聖地の構造 / 環境 / 景観 / 神仏関係 / 瞑想 / 儀礼

目的

第1回高野山会議の開催に当たり、はじまりの場である高野山を主として宗教的見地から多角的に検討し、われわれの立脚地を照らすとともに、新たな気づきと発見を目指す。

概要

聖地・高野山の空間構造を提示して全体の基調とし、古来高野山において進められてきた環境保全と景観の創出について検討する。その上で高野山におけるカミーホトケ関係を論じ、またそこに発達した真言密教の瞑想と儀礼の特色について考える。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年の間、高野山において真言宗が自然と共生しながら創造してきた文化の特性を読み解き、次の1200年を展望する。

[ホスト & ゲスト情報] 奥山直司 / 山陰加春夫 / 山口文章 / 丹生晃市 / 添田隆昭

ク
ロ
ー
ジ
ン
グ
日時：11月28日(日)14時45分～15時30分 場所：高野山大学黎明館

セッション報告

東京大学先端科学技術研究センター所長 神崎亮平
各セッション総括者

閉会

東京大学先端科学技術研究センター ×
東京フィルハーモニー交響楽団メンバー

高野山会議 2021 クラシックコンサート

11月28日(日) 開場 12時30分
開演 13時00分(終演 14時30分予定)

高野山大学松下講堂黎明館
参加無料・要事前申込

【曲目】

W.A.モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク より
P.チャイコフスキー 弦楽セレナーデ ほか

【出演】

近藤薫

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
東京大学先端科学技術研究センター特任教授

東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽アンサンブル

ヴァイオリン：小川恭子 / 岸本萌乃加 / 小池彩織 / 高瀬真由子 / 農頭奈緒 / 藤村政芳 / 水鳥路
ヴァイオラ：加藤大輔 / 木下雄介 / 中村洋乃理
チェロ：広田勇樹 / 三谷野絵 / 渡邊辰紀
コントラバス：黒木岩寿

主催：東京大学先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

共催：和歌山県 / 高野町 / 高野山真言宗総本山金剛峯寺 / 高野山大学

高野山に響く
弦の調べ

